

# 令和5年度「進路対策研究会」進路調査結果【抜粋版(更新)】

横浜市内在住の、①特別支援学校、支援学校に在籍する児童生徒、②サポート校、インクルーシブ校等に在籍する福祉的支援が必要と思われる生徒を対象にした進路にかんする調査。

## 1. 特別支援学校等高等部卒業生推移・予測数

参照:資料1-1 P4

卒業年度	1982(S57)	2019(R元)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	2029(R11)	2030(R12)	2031(R13)	2032(R14)	2033(R15)	2034(R16)
						現高3	現高2	現高1	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
卒業生(人)	123	808	817	723	778	788	777	732	986	1034	1125	1475	1532	1644	1860	1847	1605

\* 中学生以下は、個別支援級(令和5年5月1日の統計数字)を含む。

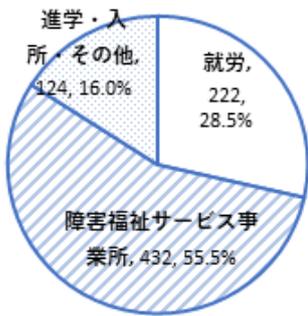
- 各年度で多少の人数の変動はあるものの、今後、1,000名を超える卒業生が見込まれる。計画的な事業所整備と関係機関との連携により、本人のニーズに合った進路先の確保が課題である。

## 2. 令和4年度卒業生の進路結果

参照:資料1-1 P6

### <令和4年度進路先内訳>

### <進路先別推移>



	H28年度卒	H29年度卒	H30年度卒	R元年度卒	R2年度卒	R3年度卒	R4年度卒
就労	28.2%	34.0%	31.6%	32.7%	30.1%	29.3%	28.5%
進学・職業訓練	8.5%	7.5%	8.2%	6.8%	8.0%	7.9%	11.7%
入所施設	1.1%	0.0%	0.4%	1.2%	0.7%	0.6%	0.4%
重度通所 *1	2.6%	2.9%	2.1%	1.6%	1.4%	1.9%	2.3%
生活介護	15.4%	14.9%	17.6%	17.3%	19.1%	18.0%	17.5%
自立訓練 *2	1.1%	1.2%	2.4%	2.1%	3.0%	2.8%	3.6%
就労移行	10.3%	9.8%	9.2%	9.0%	8.1%	9.7%	8.4%
就A・就B	16.6%	16.1%	13.8%	16.1%	19.6%	17.4%	18.3%
作業所型	5.8%	3.5%	5.3%	3.5%	2.6%	3.6%	2.2%
活H	6.4%	5.9%	4.3%	4.7%	3.5%	4.8%	3.2%
その他 *3	4.0%	4.2%	5.1%	5.0%	3.9%	4.0%	3.9%

\*1: 重度通所: 重度重複通所、\*2: 自立訓練: 機能訓練・生活訓練 \*3: その他: 在宅等

- 令和4年度卒業生から、インクルーシブ校3校が調査に加わったことにより、進学の割合が増加していると思われる。
- 自立訓練事業所の利用割合が増えている。

### <高校1~3年生時点進路希望との比較>

	就労	進学・職業訓練	障害福祉サービス事業所内訳								
			重度通所 *1	生活介護	自立訓練 *2	就労移行	就労A	就労B	作業所型	機能強活H	法人活H
高1時点の希望	39.5%	3.3%	3.0%	21.6%	1.1%	4.8%	1.1%	18.7%	1.8%	0.3%	2.4%
高2時点の希望	38.5%	10.0%	2.5%	16.9%	0.1%	5.3%	1.5%	17.1%	2.4%	0.4%	2.4%
高3時点の希望	33.5%	13.1%	1.9%	14.5%	2.1%	6.4%	1.3%	17.1%	3.5%	1.8%	2.7%
進路結果	28.5%	11.7%	2.3%	17.5%	3.6%	8.4%	0.6%	17.7%	2.2%	1.3%	1.9%

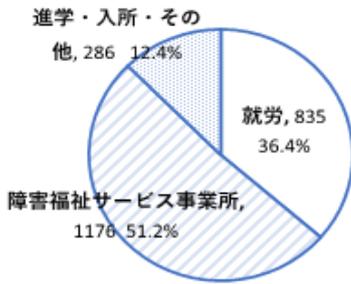
\* 高1~3年生時点の進路希望は、令和2年度~4年度進路調査結果から抜粋。

- 高校2年時点で進学希望者が10%を超えた理由は、インクルーシブ3校が調査に加わったことが背景にあると思われる。
- 昨年度同様、就労移行支援事業所や自立訓練事業所などの増加により、進路先の選択肢が拡充し障害福祉サービス利用の幅が広がったと思われる。

3. 高校1年生から高校3年生までの進路希望

参照: **資料1-1** P7

<令和5年度進路希望内訳> <事業種別内訳>



	就労	進学・職業訓練	障害福祉サービス事業所内訳								
			重度通所*1	生活介護	自立訓練*2	就労移行	就労A	就労B	作業所型	機能強活H	法人活H
高1	38.8%	8.9%	1.2%	15.0%	1.6%	5.7%	0.8%	23.1%	1.0%	0.4%	1.4%
高2	38.2%	7.2%	1.2%	17.5%	2.2%	4.8%	1.0%	21.6%	0.8%	1.0%	1.7%
高3	32.2%	11.3%	0.9%	14.0%	2.4%	7.4%	0.9%	18.2%	1.5%	2.0%	4.3%

- ・令和4年度と5年度の進路希望内訳には大きな変化はない。
- ・事業種別の内訳を見ると、昨年度同様、高校1年から高校3年にかけて、就労希望者の割合が低下している傾向がある。これは、入学後に職場見学や実習等を経験することで、高校卒業後すぐの就労が現実的に難しいと考え、より具体的な進路(障害サービスや進学、職業訓練)を希望するようになったと考えられる。一方で、入学後に障害福祉サービス事業所の見学や実習を重ねる中で、どのサービスを使うことが良いのか考え、ご本人にあった進路先を具体的に選択している傾向がある。自立訓練の希望が増えているのは、ここ数年で自立訓練事業所の増加によるものと思われる。また、今年度、高校3年の法人型活動ホームの希望は例年に比べ、かなり増えている。

<高1～高3居住区別人数と令和6年度新規受入人数>

	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	合計	
高1～高3	174	112	33	69	100	137	130	198	88	130	176	141	140	136	187	81	147	118	2297	
うち高3	58	30	12	30	40	44	45	63	37	52	58	44	41	51	69	25	44	45	788	
令和6年度新規受入人数*4	140	230	125	187	39	72	116	89	78	77	143	107	60	218	164	49	244	129	2267	
【内訳】	障害者支援施設	1	0	0	0	0	9	5	1	0	0	2	0	2	0	0	2	0	22	
	生活介護	20	26	7	2	1	11	45	39	21	14	25	51	18	29	42	10	68	25	454
	訓練	6	10	25	0	0	0	4	0	0	2	1	1	0	0	0	3	0	0	52
	就労移行	29	43	40	109	0	13	15	5	18	20	67	6	4	60	35	0	2	5	471
	就労A	8	12	8	0	5	3	0	2	0	0	4	0	0	18	0	0	0	5	65
	就労B	56	105	21	58	22	20	22	27	18	20	25	29	28	91	53	21	153	73	842
	作業所型	8	10	9	13	4	5	16	11	2	5	2	2	0	10	4	1	12	3	117
	精神作業所型	7	21	15	0	7	7	0	3	16	7	12	17	7	10	27	12	2	10	180
	機能強活H	4	1	0	2	0	4	1	1	3	3	0	0	1	0	1	2	5	4	32
法人型活H	1	2	0	3	0	0	8	0	0	6	5	1	0	0	2	0	0	4	32	

\*4:「令和6年度新規受入れ状況調査」から抜粋。【内訳】は週1名からの受入を含む。

- ・令和5年度受け入れ人数と比べると、各種事業所の新規受け入れ人数は増加している。
- ・区によって、令和6年度の受け入れ可能な事業所種別にばらつきがあり、ご本人の居住区ではない区の事業所を進路先を選ぶケースが想定される。
- ・高校3年生の人数に比べ、受け入れ人数はかなり多いが、週1からの受け入れ人数も含んでいるため、週5日通所だと希望日数を通えるとは限らない。